

## ベトナムボランティアツアーを通じて

1年1組 佐野 楽

ベトナムボランティアツアーの6日間、私は、日本ではなかなか経験できないことができ、ベトナムのひとの優しさや、文化、ベトナムに行ったからこそ分かった日本が恵まれていること、沢山のことを学ぶことができました。

ベトナムに行く前は、四條畷高校の生徒さんの話や、服部先生とボランティアツアーに訪れたことのある方の話を聞いて、任された仕事を上手くこなせるか、他の人の足を引っ張らないか、ベトナムで上手く過ごすことができるか、心配でしたが、初めてベトナムに行けること、人の役に立つことができること、楽しみでもありました。

はじめは上手くうてるか心配だった点眼も、患者さんは優しいひとばかりで、点眼をするたび、薬を飲むための水を渡すたびに「カムオン」と言ってくれました。「シンチャオ」と「カムオン」しか知らないのにコミュニケーションがとれたり、笑い合ったり、ゾアマツ（目を開けて）という単語も教えてくれて、和やかな雰囲気緊張せず点眼をうつことができました。伝えようと思えば、言葉がわからなくても伝えられることが分かりました。温かいベトナムだからこそ伝えられたのかなと思います。

手術中の手術室をガラス越しに近くで見ることができました。肉眼では見えない細かな作業を立て続けに行うお医者さんと患者さんとお医者さんをサポートする看護師さんが凄く格好良かったです。術後の患者さんに軟膏をいれて、ガーゼをつける作業はとても緊張しましたが、なかなかできない貴重な経験になりました。行う機会をくれた服部先生に感謝です。術後の患者さんを診にまわると、目が見えるようになったと笑顔で喜んでいる患者さんを見て私も嬉しかったです。少しでも私が役に立ったのかなと思うと、ボランティアツアーに参加して良かったなと思います。

ベトナム料理は自分の口に合うか心配でしたけど、日にちが経つに連れて食べられるようになったと思います。毎朝食べたフォーは、やっぱり日本で食べるフォーと味が違い、あっさりしていて食べやすかったです。ベトナム料理は、沢山の種類の惣菜をみんなで分けるスタイルで、味が薄い料理が多く、つける調味料も多くありました。品ごとにつける調味料が違いました。ベトナムでは養殖のエビが有名で、プリプリしていて美味しかったです。

ベトナムでは、道路が日本に比べて凸凹していたり、シャワーのお湯が出なかったり、音姫のない以前に、トイレットペーパーがないトイレがありました。日本に比べると、町も汚く、日本での生活がどれだけ恵まれているか分かりました。医療器具の数も少なく、多くの人がすぐ病院に行くことができないことなんて日本では絶対ありえないことなので、今私がいる環境は当たり前じゃなく感謝すべきことなんだと思いました。

このボランティアツアーを通じて、改めて看護師になりたいと思ったし、他のいろんな国のひととコミュニケーションをとりたいと思いました。ボランティアツアーに参加させてくれた親、参加する機会校長先生には本当に感謝です。この経験が無駄にはならないように、普段の生活も勉強も頑張りたいと思います。



私は3月16日～21日にかけてベトナムでボランティア活動を行いました。15年間にわたり、白内障の手術を無償で行っている服部匡志先生のお手伝いとして行きました。そこでの主な活動内容は、患者さんたちに点眼をしたり、眼内レンズの整理をするのが主な仕事でした。患者さんたちは50～90歳くらいのベトナムのお年寄りの方々が多くいました。病院では日本語も英語もほとんど通じませんが、私たちが笑顔で接すると患者さんも笑顔で挨拶をしてくれました。この活動を通して思った事は、日本では医療設備がととのっていて簡単な治療も難しい治療もすぐに受けることが出来ます。さらに、保険制度もととのっています。しかし、ベトナムでは、病院が少なく、保険制度もととのっていないので、治療を受けるのが難しいということが分かりました。私たちはすごく恵まれているなど感じました。このような状況の中、服部先生は無償で治療を行っていて、みんなにすごく感謝されていました。

また、ベトナムのホテルでお風呂のお湯が出ず、水しか出ない日がありました。日本のホテルでは考えられないことです。この点でも日本がどれ程恵まれているかが分かりました。

患者さんへの直接的なサポートは点眼をすることだけでしたが、手術後、目が見えるようになった時、私たちにもありがたい言葉をくれました。このことで、小さな助けでも人の役に立てることが分かったので、これからも小さい手助けもしていきたいと思います。

ベトナムの方々は皆さん親日的でした。例えば、国歌や日本の桜の曲が聴きたいなど、興味を示してくれました。そして皆さん優しく、病院では分からないことを身振り手振りで教えてくれました。短い時間でしたが、この活動を通して、日本ではできない素晴らしい経験が出来たことに感謝しています。



## ベトナムへボランティア活動に行って

2年1組 高橋 亜未

私は、生徒6名と校長先生と倉山先生で3月16日から3月21日までの6日間、ベトナムの dam ha 地区の病院でボランティア活動を行って、私は沢山のことを学びました。

ベトナムに着いて2日目、私は初めての環境で分からない言語が飛び交う中で本当に不安で仕方ありませんでした。」でも、1日目は患者さん達とコミュニケーションを取りながら点眼したときに笑顔で「ありがとう」と言ってくくださった時、本当に嬉しくてたまりませんでした。

皆でチームを組んで眼内レンズを並べたり、点眼をしたり、皆自分から積極的に活動出来た事がとても良かったです。服部先生や日本から来た先生、現地の先生方は、私達が困っていたら丁寧に教えて下さり、本当に感謝しています。病院の先生方と共に毎日一緒に食事をしたり、いろんな事を話したりしたのもとても楽しかったです。

ベトナムに行き、お風呂に入る時に水しか出ない日が2日もあって、日本ではこのようなことはない、自分がどれだけ恵まれた環境で生きているのかを改めて実感することが出来ました。

あと、コミュニケーションでは言葉は通じることが難しかったですが、私達が笑顔で接することを心掛けたら、患者さん達も笑顔になってくれて、自然と意思疎通が出来て、気持ちを伝えるのは言葉だけではないということを知ることが出来ました。

初めての環境でボランティア活動をする事に対して、とても不安を抱いていましたが、沢山の方々にサポートしていただいたおかげでとても貴重な体験が出来ました。服部先生や他の先生方に出会えたことは私にとってかけがえのない宝物です。このボランティア活動をきっかけにこれからも人の役に立てるように、何事にも積極的にあきらめず、沢山のことを経験していきたいと思えます。

ベトナムへボランティア活動に行けたことは、とても光栄です。お世話になった方々、本当にありがとうございました。



## 患者さんとのコミュニケーションの大切さ

2年B組 松尾 真理亜

今回のこのボランティアツアーで、私は沢山の事を学ぶことができ、沢山の貴重な経験を得ることが出来ました。

患者さんに点眼をする時に、ベトナム語で挨拶すると笑ってくれて、患者さんが挨拶し返してくれたり、ベトナム語の発音を教えてくれたり、他のベトナム語を教えてくれたりしてくれました。

最初は言葉が全く理解出来ないのが怖かったし、自分から進んで接することは出来なかったけど、段々慣れてきて、患者さんとコミュニケーションをとることが出来た時、すごく嬉しかったし、患者さんと話すことが出来た時間はすごく楽しかったです。

お互いに言語を理解する事は出来ないけど、言いたい事は理解できるし、伝える事も出来たのでコミュニケーションをとるのに言語は関係ないんだなと思いました。

私がさせてもらった点眼やレンズ選び、麻酔の準備は、もしもミスをしたら手術ができなくなるし、患者さんがすごく苦しんでしまうことになるので、どんなに小さな事でも医療に関する行為は責任重大だと感じました。

自分が生まれ、17年間暮らしてきたこの日本という国はやっぱり恵まれているなと感じたし、私達の何気ない普通の日常は、他の国にしてみれば普通ではなくとても幸せなんだとも感じました。

自分が出来た事は本当に小さな事で、小さな力にしかなれなかったけど、今回のこの活動が少しでも役に立っていたら嬉しいです。

この様な貴重な機会を設けて、チャンスを与えてくれた学校、反対すること無く、ベトナムでこの活動をする事を許可してくれた家族に感謝しています。

今回のこの経験で改めて看護師という仕事を指したいと思ったし、この経験を忘れること無く、将来、看護師や助産師という仕事に就けた時に活かせるように頑張りたいと思います。



## 患者さんの笑顔に感激

2年B組 東奥 瑠華

このベトナム研修は私にとって、とてもいい経験になりました。行く前にベトナム語やボランティア活動の話聞いていましたが、実際行くと話聞いた以上にこの活動は人の為になっているのだと思いました。患者さんに目薬をさす時「シンチャオ（こんにちは）」と言って目薬をさして、さし終わった後に「カムオン（ありがとう）」と言うようにしました。すると患者さんからベトナム語ありがとうやたまに英語でありがとうと言ってもらえてとても嬉しかったです。翌日患者さんの回診の時、患者さんが泣いて喜んで先生の手を握っていた様子はとても印象的でした。こんなにも人に感謝するところを私は今まで見た事がなかったからです。手術室の中に入って手術の見学と軟膏を入れさしてもらった時は、初めての経験でとても緊張しました。

ベトナムはバイクを交通手段に使っていたのですがスピードは日本で見るより遅いと思いました。ベトナム料理で有名な「フォー」はとてもあっさりしていて美味しかったです。麺の太さで名前が違ったりしたのでそれは日本で言うラーメンとうどんの違いなのかなと思いました。世界遺産のハロン湾は、夫婦岩やゴリラの形をした岩など色々な岩がありました。ベトナムの人はとてもフレンドリーに接してくれて、言語の代わりにジェスチャー等で色々なことを教えてもらいました。この研修は私にとっていい思い出になり、新しい夢を持つ事が出来ました。またこの様な機会があれば参加したいと思います。



## ベトナムボランティアツアーに参加して

2年B組 廣谷 みちる

ボランティア活動では、手術前の患者さんに点眼をしたり、患者さん一人ひとりに合った眼内レンズを選んだり、麻酔の準備をしたりと、今まで経験したことがない様なことをさせていただきました。

点眼をしている時が一番患者さんと接する機会が多く、挨拶や感謝の言葉を言ってくださる方や、中にはベトナム語が分からない私たちにベトナム語を教えてくださいませんかという方もいました。言葉が分からなくても表情や手の動きで相手の方の言いたいこと



が何となく分かってくると、緊張がおさまっていき、患者さんと接するのがとても楽しくなっていました。手術の時は不安そうだった患者さんが、翌朝の回診の時は笑顔で感謝の言葉を述べながら涙を流しておられるのを見て、とても感動しました。感謝してもらえる嬉しさやコミュニケーションの大切さを感じることができた瞬間でした。

服部先生をはじめ、現地の皆さんはとてもフレンドリーでたくさん話しかけて下さり毎日のご飯が宴会みたいでとても楽しかったです。取り皿の上の料理がなくなったり、コップの中が空になったらすぐに注いで下さったりと、優しい方ばかりでした。食事は、基本的に薄味で何かを付けて食べる料理が多かったです。一番好きだった料理はおこわでした。果物はザボンが一番おいしかったです。

最後の日の観光では、船が貸し切りだったのでリッチな気分を味わえました。海鮮料理もおいしく、船のデッキから見える景色も最高でした。受け入れて下さった服部先生や現地の方々、またこの企画を考えて下さった先生方、行かせてくれた両親にとっても感謝しています。この活動で経験できたこと、教わったことを忘れず、これからの未来に活かせるように夢に向かって頑張っていきたいと思います。